

米原市総合計画 第5回審議会「安全・活力」部会発言要旨

日時：平成18年12月8日(金)

13:30～16:00

場所：米原公民館 3B 会議室

1. 課長あいさつ

- 前回は課題について議論いただいた。本日はその続きをお願いする。2時間という限られた時間のなかであるがテーマを網羅した議論をお願いしたい。

2. 資料説明及び審議

〈防災について〉

委員：防災はコミュニティが基本である。NPOは行政と市民の間を埋める役割を持つが最近隙間が大きくなっておりカバーし切れていない。

国、自治体、市民が災害のレベルやタイプ（地震、台風、火事）に応じて機能する必要がある。日常的にやれる防災の仕組みを市が提示し、自治会が取り組みばよい。

委員：自治組織を基礎として、不足するところをNPOが補っていく。

各自治会の消防団をレベルアップする計画とするべきだ。

委員：大災害には大きくは災害対策基本法と災害救助法が適用されるが、個人の日常生活の復旧までに対応できない。条例でカバーしてはどうか。

委員：地域防災計画だけでは適切な対応は困難である。

委員：阪神淡路大震災のときに神戸と淡路で被災状況が違ったのはコミュニティが原因している。淡路では被災者の状況把握と支援がコミュニティのもとでできていた。

事務局：防災計画をたてるだけでなく、集落、自治会などでの訓練が必要だ。また、企業の役割（重機の貸し出し、非常食など）もある。

委員：現状では災害時の緊急車両の経路が確保できない。都市計画で検討する必要がある。

委員：漠然とした防災計画ではなく、科学的情報に基づいた具体的な計画が必要だ。

委員：市民の災害に対する意識を変えるとともに、日頃からいざというときの備えができていくという工夫が必要である。コミュニティで各戸の状況を把握し、災害時に助け合うとか、炊き出しは運動会などの行事で訓練をかねて行うとか、押しつけではない自発的な取り組みが求められる。

委員：行政は防災に関わる様々な情報を提供して、市民の活動を支援するべきだ。

〈交流について〉

委員：交通のシビルミニマムを確保し、全市民が移動に困らない交通環境を築くことが求め

られる。

委員：公共交通の整備は交通弱者対策だけでなく環境対策としても重要だ。

様々な施策や計画は単体でとらえるのではなく大きなまちづくりとしてとらえる必要がある。

米原駅周辺からは駐車場を無くすべきだ。米原が変われば市全体が変わる。

委員：バスを事業採算からとらえると成立しない。市民が支えるという考え方が必要だ。その上で行政が安全面や経済面の工夫をすればよい。

委員：交通の要衝だけではまちの姿が見えてこない。どんな目的で交通を整備するかを明らかにする必要がある。また、広域交通と地域交通をつなぎ、市民のメリットが生まれる施策とする必要がある。

委員：市内各所のまちづくりの成果や資源に人が流れる交通整備が必要である。今ある観光施設などは利用者の動きをシミュレーションできていない。

委員：国や県の補助金の制約にしばられていては真に求められるサービスを提供できない。工夫が必要である。

委員：観光施設についても生活施設についても車がないと機能しないものばかりであり、高齢者にとってはストレスとなっている。出歩く機会も少なくなり、不健康となる。

委員：民間活力の活用が必要だ。

委員：バス運行にボランティアを活用する事例もあるようだが、米原ではそのレベルまでボランティアが育っていない。

【産業について】

委員：旬菜の森のお客さんに周辺の観光スポットをよく聞かれる。パンフレットなどでPRする工夫が必要だ。

委員：醒井宿の観光資源としての価値は高い。琵琶湖をはじめ、地元の観光資源を掘り起こし活用する努力が必要だ。

委員：体験型の観光が主流になっており、観光農園など遊べる農地を造り、高齢者が農業指導を行うなど資源の組み合わせと有効活用が必要だ。JA、行政がリードする必要がある。

委員：観光施設のリーフレットがあるが、マップやアクセス案内、他の施設の案内などがないので市全体の観光への効果が薄い。4町がバラバラで連携できていない。観光協会が財源を確保し体力をつけて頑張ればよい。

委員：地域を強化する補助金はどんどん使うべきだ。アメリカの魚釣りマップのような当地で便利な情報が満載の情報提供をするなど、新たな観光政策がいる。

委員：米原の観光施設は戦略が欠けている。駅から観光施設へスムーズに誘導するような工夫が必要だ。

委員：醒井の丹生川の片側に彫刻を並べて彫刻のまちをつくるとか、周遊コースをつくるなどの工夫がほしい。

【人口定着について】

委員：米原に住み続けたいと思うまちづくりが必要だ。人口が増える計画とする必要があるのではないか。

委員：公共投資が先行し地価が上がりすぎて適切な土地利用ができていない。地主のまちになってしまっている。

委員：東京の丸の内のようにアーケードのあるまちをつくとよい。民間が出店したいと思うまちでなければならぬ。人を排除するまちではだめだ。

委員：シルクは住宅地にはならないのか。

【土地利用について】

委員：長浜は博物館や黒壁で頑張っているが、工業団地は空いている。製造業の誘致については米原が優れている。長浜への競争心がもっとあって良いのではなか。企業誘致をどんどん進め、税収を上げたらよい。

委員：関ヶ原 IC の近隣や大阪セメント跡地を大胆な発想（都市計画の制約を緩和するなど）で開発することも考えられる。

委員：伊吹、山東、近江、米原それぞれの地域の特性を生かした土地利用を考えるべきである。

委員：総合計画に土地利用の見直しを位置づける必要がある。農用地など手をつけられないとはじめから諦めるのは良くない。

委員：水辺の里構想をはっきり位置づける必要がある。

委員：米原は交通の要衝であると言われるが、地元メリットが出るよう生かされているのか。地域交通とうまく結ぶなどの工夫が必要だ。

【産業について】

委員：林産品を地元で消費するようにして林業を活性化することはできないか。

事務局：環境問題などから将来外材の輸入が難しくなることも考えられるため、今は採算が合わなくても管理しないと、将来商品として使えない。林業は長い目で見ることが必要だ。

委員：農業と同様、後継者対策を考える必要がある。

委員：産業としては成立が難しいが、森林の公益的機能の保全から林業を維持する必要がある。和歌山の緑の雇用事業などが参考にならないか。

【本会議のキーワードについて】

- 高齢者の生きがい対策
- 都市計画は自然破壊、これを補う計画とする（ミティゲーション）
- 駅がたくさんあるが生かされていない。地域交通の見直し。

- 自然エネルギー
- 防災
- 駅をきれいにする。
- コミュニティが大切
- ごみを活用する
- 防災条例
- 地域交通条例

3 . その他